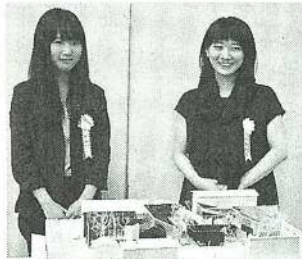


## 「生きる蔵」に最優秀賞

ポラス 学生・建築デザインコンペ



作品の模型を前に微笑む永田さんと稲葉さん

ポラス主催の第4回「学生・建築デザインコンペティション」の公開審査会がこのほど開かれ、205作品の応募の中から選ばれた学生5組が最終プレゼンテーションを行った。

今回のテーマは「土蔵をつつむ今、今をつつむ未来」。プレゼンの結果、永田琴乃さん（日本大学大学院）と稲葉来美さん（横浜国立大学大学院）の作品「生きる蔵を手伝う家」が、5人の審査委員の全員から高い評価を受け、最優秀賞に輝いた。永田さんと稲葉さんの作品は、テーマの「蔵」を麹菌など無数の菌が住む一つの生命体と捉え、生きた発酵蔵と共に暮らす住宅をデザインした。もの。発酵食品の活用に加え、菌の生息範囲の拡大を考慮した設計など、独自のアイデアが盛り込まれている。

表彰式で永田さんは「麹菌と暮らすというコンセプトで、楽しみながら設計できた」と振り返った。また稲葉さんは「日常のささやかな喜びと、それを長い時間をかけて紡ぐことを建築で表現でき、しかも最優秀賞に選ばれてとても嬉しい」と喜びを語った。青木淳審査委員長（青木淳建築計画事務所）は、「蔵というテーマに対し、応募者がそれぞれ大きく異なる答えを作品で示したことに面白味を感じた」と感想を述べた。また結果については、「建築は単なるアイデアの表現ではなく、造ったものから『意味』が発生することもあり、自分が教わることもある。最終的にその『意味』の大きな作品が、賞に選ばれたように思」とコメントした。

他の受賞作品は、笹尾浩一さん（近畿大学大学院）の「路に住まい、路と暮らす町」が優秀賞を受賞したほか、田中翔太さん（京都工芸繊維大学大学院）の「土蔵をぬけて」、前岡光一さん（大阪工業大学）と藤岡宗杜さん（同大学院）の「彩りサーカス」、土居大夏さん、加賀谷元希さん、坂口佳さん（共に京都工芸繊維大学大学院）の「イキモノの塀（ねぐら）」が入選作品に選ばれた。